
米国式教務

(アカデミック・アドバイジング)

2015年06月30日
於：米国大使館

テンプル大学ジャパンキャンパス
アカデミック・アドバイジング・センター
ディレクター 島田敬久

全入化時代の大学運営体制：トロウ・モデル

高等教育システム 発達段階	エリート型	マス型	ユニバーサル・ アクセス型
大学の管理者	アマチュアの 大学人の兼任	専任化した大学人 ＋ 巨大な官僚スタッフ	管理専門職

出典：M. トロウ「高度情報社会の大学」（喜多村和之 編訳）

アドバイジング：歴史的背景（Wesley Habrey 1998, ACT）

教員アドバイザー (Faculty Advisor) のみの支援モデル

35% (1980年) → 28% (1997年)

専門職アドバイザー (Professional Advisor) を採用した支援モデル

24% (1980年) → 73% (1997年)

NACADA = **N**ational **A**cademic **A**dvising **A**ssociation の発足 <http://www.nacada.ksu.edu/> (1979年)

** 全入化（ユニバーサル化）に伴い学生支援に特化した職員の存在が不可欠となった**

アドバイジング：現状（2015年）

アドバイザーというプロフェッション/専門領域は完全に確立

現在は専門領域内でさらに細分化が進む

- Honors Program
- Student Athlete
- Transfer Specialist / First-Year Specialist
- Undeclared / Major Exploration

アドバイザーの果たす役割 - 大学のニーズは日米共通

大学全入時代の影響

A) 多様化する学生プロフィール

- キャンパスにおける「新世代」
 1. **First Generation**
 2. **Under-Prepared Students**
 3. **Low-Motivated Students**
 4. **Students with Disabilities**
 5. **International Students**
- 学生の多様化＝体系だった支援体制の確立が急務

B) 大学が負うべき責務

- ドロップアウト 防止：リテンション（学生残留率）と大学経営
- ステークホルダー（利害共有者）に対する大学としてのサポート義務

TUJでの運営体制（2015年現在）

- テンプル大学が設置するアドバイジング・オフィスの一つ
（TUJでは唯一）
- 教学担当副学長直轄 = 特定の学部には属さない中立的ユニット
- ディレクター1名、専任アドバイザー4名の5名体制
- 高い専門性 → 修士号必須（全学共通）
- 4学部11専攻（2+2プログラム含む）全ての学生を網羅
- 全てのアドバイザーが全専攻、全学生をカバー可

TUJアドバイジング・オフィスの機能（抜粋）

- 履修指導
- 新入生オリエンテーション
- 卒業要件確認、最終卒業判定
- 編入単位読替審査
- 中間成績評価
- 学内留学プログラム運営（⇔ アメリカ本校）
- 単位互換プログラム運営（⇔ 武蔵、東洋、明治大学）
- 学習／その他の障害がある学生のサポート
- カリキュラム開発支援／運用
- 各申請審査（教学関連）

学内協働体制（事例）

- 学生サービス部
 - 新入生オリエンテーション
 - 学生ビザ
 - 奨学金 / 学生ローン

- 就職部
 - インターンシップ

- 教員
 - 編入単位読替審査
 - カリキュラム開発

アドバイジングが機能するために (第2部に向けて)

[ソフトウェア]

- 設置・組織モデル
- 人材確保と適正
- キャリアパス設定：スペシャリスト vs ゼネラリスト

[ハードウェア]

- 厳密なGPA (Grade Point Average)
- コース・ナンバリング
- 学期制：セメスター & クォーター
- 学事暦 / 開講 (授業) 計画